

毎週日曜発行
2024 6/9

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



地球のためにできること

手作りカレンダーを販売



世界では国同士、民族同士の争いが絶えませんが、命の危険にさらされる過酷な生活を送る人々のため、宮城県石巻市大谷地小と釜小は毎年、児童手作りのカレンダーを販売し、紛争の起きた地

きょうのテーマ

紛争地域の市民らを支援



地域の市民を支援する人たちに売上金を届けています。

国連の持続可能な開発目標(SDGs)の16番目「平和と公正を全ての人に」に向けた取り組みが、どこでどんな支援につながったのでしょうか。大谷地小で5月上旬、報告会が開かれました。

同小では2021年から、紛争地域の住民の支援を続ける石巻市在住の西村陽子さん(57)の指導を受け、児童が新北上川のヨシを使って紙を作ります。カレンダーを作っています。イベントなどで販売にも協力し、23年度は174冊、約18万円を売り上げました。

みんな思い出



ウクライナ支援に奔走(ほんそう)する土子さん(正面左)の話を聞く児童たち

5、6年の児童計40人が参加した報告会には、西村さんと、ウクライナ東部の都市ハルキウで無料食堂や子ども向けの移動図書館を運営する東京都出身の土子文則さん(75)、ウクライナから石



巻市に避難するイリナ・ホンチャロバ(64)さんが出席しました。西村さんは売上金をウクライナとイラク、パレスチナ自治区ガザの3地域に届けたことを紹介しました。イラクでは貧困家庭、ガザでは医療の支援に使われたそうです。

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

ウクライナでは、移動図書館の本の購入に充てられました。土子さんは学校へ通えない子どもたちの元へ、週5日移動図書館を走らせています。



「君たちと同じ年齢の子がミサイルが飛び交う中で、ご飯を食べられず、学校が破壊されて学ぶこともできない」。土子さんは涙ながらに現地の様子を伝え「何でもいい。今できることは何か、自分で考えて行動してください」と訴えました。

イリナさんは「現地の子どもたちと交流を続けてほしい」と期待しました。報告を聞いた6年千葉竜雅さん(11)は「紛争に苦しむ人や子どもたちのため、これからも喜んで協力したい。自分ができることを考え続けていきます」と話しました。

今週の注目ニュース

◇13日(木) はやぶさの日
2010年のこの日、小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還しました。03年出発し、05年に小惑星「イトカワ」に着陸。砂を持ち帰り、約60億キロを旅しました。後継は「りゅうぐう」を探査した「はやぶさ2」。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー